

# 秋田港・船川港・能代港に係る要望

地域の暮らしと経済を支える  
秋田の港湾整備を目指して

平成 28 年 8 月 1 日

秋田商工会議所	会頭	三浦	廣巳
秋田港振興会	会長	三浦	廣巳
秋田みなと振興会	会長	矢吹	達夫
一般社団法人秋田県貿易促進協会			
	会長	齊藤	健悦
船川港港湾振興会	会長	西宮	公平
男鹿市商工会	会長	加藤	義光
能代商工会議所	会頭	広幡	信悦
能代港湾振興会	会長	齊藤	滋宣

秋田県内の重要港湾、秋田港、船川港、能代港の整備につきましては、平素よりご配慮を賜り厚く御礼申しあげます。

秋田では、経済発展著しい日本海対岸や東南アジア諸国の成長を取り込み地方創生を実現するため、環日本海の経済交流を推進し、諸外国との貿易拡大に地元企業と行政が一体となって取り組んでおります。これを支える最も基礎的な社会資本として県内各港湾の整備を着実に推進することが肝要です。

また、秋田の各港は、発電所、LNG基地、国家石油備蓄基地などの立地によりエネルギー供給拠点としての役割を果たしてきました。さらに能代石炭火力発電所の発電施設の増設、秋田港への新たな火力発電所の立地計画、能代、秋田両港での洋上風力発電施設の立地計画などが進捗しており、日本を支えるエネルギー拠点としての重要性が増し、これを支える港湾の役割も重くなっています。

港湾は、地域の経済社会のみならず我が国の社会活動を支える重要な任務を担っており、必要な施設の整備を進めるとともに、平素からの維持管理により機能を保持し続けることが不可欠です。

このために必要な港湾関連予算を十分に確保いただきますよう強く要望いたします。

東日本大震災においては、秋田県の各港に入った支援物資が太平洋側に輸送され、被災地の復旧復興に役立ちました。地域の防災力の強化とともに、大規模災害時の広域的対応のためにも日本海側、秋田県の各港を防災拠点として活用するべきと考えます。また、今後日本海沖で想定される地震に備えた港湾背後地の人命・財産を守る津波対策、発災時の対応を確実にするためにも、各港における耐震強化岸壁の整備や埠頭用地の増設、緊急物資を展開するための道路網とのアクセス強化が不可欠と考えます。

さらに、船川港至近には、東北最大の政府米備蓄用の定温倉庫や石油関連施設が立地しており、こうした施設と一体となった国民の安心安全のための広域的観点での防災拠点作りが必要と考えます。

国では、今後、経済対策のキーワードを「未来への投資」として、クルーズ船を受け入れる港湾施設の整備などに取り組み、地方の観光施設を抜本的に増強するとされております。

県内の各港の背後には、男鹿半島、白神山地、竿燈まつりなどの主要

観光地や観光行事があり、内航クルーズ船が毎年寄港しているほか、近年は外航クルーズ船の寄港が増加してきております。今後、港を拠点として、背後地と連携した観光振興による地域経済の活性化を図るうえで、クルーズ船の受入環境を改善するための港湾施設の整備を促進することが必要と考えます。

港湾の機能を最大限に活用するためには、港湾と道路網のスムーズな接続が不可欠であり、特に秋田港と秋田自動車道を結ぶアクセス道路の整備が必要と考えます。

秋田を含む地方の港湾では港湾に大型船舶が入出港する際に必要な水先人が不足しています。港湾運営上、致命的な問題ですが、地方では水先人の高齢化が進み、その後継者が確保できないのが現状です。全国的な課題として水先人の確保について取り組む必要があります。

これらは、中長期的視点から国の施策として是非取り組んでいただきたいと考えます。

しかし、より速やかに解決すべき課題を秋田港、船川港、能代港の各港で抱えています。今般は、まずは各港における喫緊の課題を克服するため、国のご協力を要望するものです。

各港毎の課題を以下に挙げさせていただきます。

#### <秋田港>

秋田港は、国際コンテナターミナルの拡張により年間コンテナ取扱能力が10万TEUに拡大し、環日本海交流を支える物流拠点としての益々の発展が期待されています。

また、新たに大規模な石炭火力発電所や洋上風力発電施設の建設が予定されており、エネルギー供給拠点としても更なる発展が期待されます。

加えて、クルーズ船の寄港実績も着実に積み重ね、国内外からの交流人口の拡大に貢献するとともに、観光客の誘客や地元製品の消費拡大など、更なる波及効果を創出するため、官民一体で観光客受入体制の強化等に取り組んでおります。

こうした動向を地域経済の発展につなげるためには、外郭施設整備や浚渫などの港湾整備を着実に実施することが必要です。

また、エネルギー関連施設の建設・稼働等に伴い、港湾周辺における

労働者の増加が見込まれることから、秋田港周辺企業と地域住民の安全確保に向けた、避難タワーや防潮堤整備等の津波対策を早急に実施する必要があります。

このように、秋田港の港湾利用状況が大きく変化していることを受け、秋田県が改訂作業を進めている秋田港港湾計画ではこれらの状況の変化に対応した“みなとづくり”を目指す必要があります。

#### <船川港>

船川港は、男鹿半島に囲まれた地理的要因から冬季の北西の季節風の影響を受けない静穏な海域を有する天然の良港であり、冬季を中心に風浪の激しい場合の船舶の避難港ともなっています。また、東北最大の政府備蓄米保管倉庫や石油関連施設を擁することから、食料・エネルギーの即応的な安定供給が可能な基幹的広域防災拠点となりうる地域です。被災地港湾の代替としての機能整備はもとより、現地対策本部立ち上げ前の即応支援拠点としての整備を希望いたします。

現在、男鹿市では、船川港臨港地区内に複合観光施設の整備を計画しており、背後地の観光施設等との連携により行っているクルーズ船の受入や、港を核としての港湾施設を活用した交流人口の拡大による地域の賑わい創出、地方創生を目指しております。

一方で、船川港は秋田県で公表した発生頻度の高い津波の高さに対し、県内の港湾区域で唯一、既設堤防の高さが設定津波の水位より低く、背後地の浸水面積が一番広いと想定されております。このため、地域住民の生命と財産を守るため、避難タワーをはじめとする施設整備等の安全対策が急務であります。

#### <能代港>

能代港は、秋田県県北の海の玄関口であり、能代火力発電所の立地するエネルギー供給拠点です。また、リサイクルポートとして地域経済の活性化に貢献することが期待されています。

現在、能代火力発電所で発電施設の増設が進められており、年間を通じた安定した燃料供給のため能代港の静穏度向上と泊地の水深確保が急務です。また、周辺地域への陸上風力発電所の建設、風力発電施設のメンテナンスセンターの立地、能代港港湾区域および一般海域での洋上風力発電計画も進んでおり、風力発電関係の設備・部品等の荷役が安定的に行える港湾施設が必要です。

更に、近い将来、能代市から県北地域を經由した高速道の完成も見込

まれることから、地域物流の拠点港として港湾機能の更なる充実を図るため、港湾施設の計画を見直し、港湾整備を進めていくことが必要です。

以上を踏まえた要望事項を以下に取りまとめましたので特段のご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## <要望事項>

### 1. 各港共通

- 港湾関連予算の確保

### 2. 秋田港の整備

- 港内静穏度の向上を図る国直轄事業による外郭施設（防波堤）の整備促進
- 港湾背後地の人命・財産を守るための津波対策施設整備への支援

### 3. 船川港の整備

- 発災時に即応支援拠点となりうる基幹的広域防災拠点としての位置づけと必要な施設の整備
- 港湾背後地の人命・財産を守るための津波対策施設整備への支援

### 4. 能代港の整備

- エネルギー供給拠点である能代港における国直轄事業による外郭施設及び大森地区泊地（-13m）予防保全事業の整備促進
- 洋上風力発電施設建設に関連した港湾施設整備への支援